

「異文化の地で」

北海道教育大学旭川校 英語教育専攻1年 北島 拓海

この度私は前期米国ワシントン大学短期英語プログラムに参加させて頂きました。その理由としては、早い段階で留学プログラムに取り組むことで大学生活の勉強意欲への刺激になるのではないかと考えた事、そして交換留学を見据えている自分に留学が本当に適しているのかを確かめたかったからです。

まず初めに、この留学プログラムで受講した授業やそのクラスに対する感想について述べたいと思います。クラス分けテスト終了後、私は上級クラスへ配属されることになりました。私のクラスの半数は海外から来た留学生、他は筑波大学や神戸大学、東京工業大学などから参加された大学院生や上級生の方々でした。授業内容は実践的なコミュニケーションを中心としたもので、映画鑑賞、街角インタビュー、プレゼンテーション、寸劇考案などの幅広いアクティビティーを行いました。また、教科書を用いながら新しい会話表現を学び、3分間特定のトピックについて話し続けるという非常に難しい事も勉強しました。これらの授業内容は全て英語で行われたため最初は理解に苦しみましたが、徐々に慣れていきました。これらによって、リスニング力とスピーキング力かなり鍛えられたと私自身感じています。

そして一番良かった事はクラス全体のモチベーションの高さでした。私のクラスでは、授業後でもお互い英語のみでコミュニケーションを取り合っていました。海外からの留学生が半数いる事もその理由でしたが、母国語を使わないようにする環境作りにより一人一人意識していた事が大きかったと思います。私はこの上級クラスに所属することが出来て本当に良かったと感じています。まさにこの三週間は常に英語を話し続けていた生活でした。

続いて、ワシントン大学での生活体験について述べたいと思います。私のホームステイ先は老夫婦の2人暮らしの家でした。非常に優しい家庭で、とても協力的でした。食後は毎日その日その日の話や、日本の大学生活の話をしてコミュニケーションを取っていました。休みの日には観光地に連れて行って頂きました。また、教会で長年アメリカに滞在されている女性の方と知り合い、貴重なお話を聞かせてもらった事もありました。

アメリカの食べ物は日本とは違って味が濃く、意外な組み合わせが多いように思えました。正直現地の食材は私の口に合わなかったですが、それらを食べて味わう事も異文化理解の勉強だと思いながら日々の食事を楽しみました。

次にシアトルの都市について説明させて頂きます。シアトルには非常に多くの観光名所があります。また、バスなどの公共機関も非常に多く便利でした。Downtownにはあの有名な第一号店の Starbucks やクルーズなどもありました。いき行く道の端には「ストリートミュージシャン」と呼ばれる人達が楽器で演奏したり歌ったりして賑やかな雰囲気が漂

っていました。

最後になりますが、もし次回この米国ワシントン大学短期英語プログラムに参加する方がいれば、「事前の準備」が本当に大切になるという事をお伝えしたいです。何の準備無しに留学に行けば、それは単なる旅行になってしまいます。この留学プログラムで自分自身が何を目標にしたいかを明確にし、その目標に向かって事前に勉強しておくことを進めます。

以上で前期米国ワシントン大学短期英語プログラムの報告を終わらせて頂きます。

